

# 第 22 回 日本心身健康科学会学術集会

## 抄録集

メインテーマ

『こころの安全基地』

会期：2016 年 2 月 13 日（土）

会場：人間総合科学大学 東京サテライト



日本心身健康科学会

**The Japan Society of Health Sciences of Mind and Body**

## ● 参加費：事前参加 3,000 円，当日参加 5,000 円

\*事前参加申込済の方は、当日会場受付にてお名前と学会員番号をお伝え下さい。

\*当日参加者の方は参加費を当日会場受付にてお支払いください。

閉会後の懇親会に参加ご希望の方は、別途会費 500 円が必要となります。

## ● 大会参加者へのお願い

### 1. 発表される方へ

- (1) 発表方法は、Power Point によるコンピュータプレゼンテーションとします。
- (2) アプリケーションソフトは Microsoft PowerPoint 2010 を用意しております。それに対応する形式のファイルをご用意ください。
- (3) 発表用データは、2/12（金）正午までに学会事務局宛て E-mail にてご提出ください。
- (4) 発表用スライド枚数に制限はありませんが、発表時間に見合うものとしてください。
- (5) 動画ファイルを使用される方は、ご自身の PC をお持ちください。
- (6) 次演者は発表開始 5 分前までに「次演者席」に着席し、前演者の発表終了後、速やかに「演者席」への移動をお願いします。
- (7) プロジェクターは正面 1 台で、室内正面にスクリーン 1 台、後方にモニター 2 台での映写を予定しています。

### 2. 一般口演発表の先生方へ

発表時間は、発表 7 分・質疑応答 8 分の計 15 分間です。発表中、6 分経過時（発表終了 1 分前）、7 分経過時（発表終了）、15 分経過時（演者交代）、それぞれベルを鳴らして時間をお知らせします。発表時間は厳守してください。

### 3. ポスターセッションについて

ポスターセッションは、一般口演終了後（15：30～）開始しますので、その時間はポスター前にて質疑応答をお願いします。発表用ポスター（縦 59.4 cm、横 42 cm：A3 用紙 2 枚分）は、学術集会当日の一般口演開始（14：00）までに掲示してください。

### 4. 座長の先生方へ

- (1) 担当セッション開始 10 分前までに「次座長席」にご着席ください。前セッション終了後、「座長席」へ移動し、速やかに演者の発表を開始させてください。
- (2) 演者の発表時間の超過がないように、適切に進行してください。

### 5. ご質問される方へ

ご質問される方は、質問用マイクスタンド前にお並びください。座長の許可を得た後、所属と氏名を述べてから発言をお願いします。なお、質疑応答の時間は限られておりますので、要点のみを簡潔にご質問ください。また、発表時間超過防止の都合上、座長より発言の許可を得られない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

第 22 回 日本心身健康科学会 学術集会  
プログラム

2016 年 2 月 13 日 (土)  
人間総合科学大学 東京サテライト

【午前の部】

9 : 30			受付開始
9 : 50	～	10 : 00	開会挨拶
10 : 00	～	11 : 00	特別講演
11 : 00	～	12 : 00	シンポジウム
12 : 00	～	12 : 30	パネルディスカッション
12 : 35	～	13 : 00	臨時総会

\*昼食は各自でご用意く

ださい

【午後の部】

14 : 00	～	15 : 30	一般口演
15 : 30	～	17 : 00	ポスターセッション・懇親会

1. 開会挨拶 ( 9 : 50 ~ 10 : 00 )

2. 特別講演 (10 : 00 ~ 11 : 00)

座長：丸井 英二 (日本心身健康科学会 会長, 人間総合科学大学)

人間のアタッチメントについて

—人間の乳幼児のアタッチメントとその障害—

青木 豊 (目白大学 人間学部 子ども学科)

3. シンポジウム (11 : 00 ~ 12 : 00)

座長：中野 博子 (人間総合科学大学)

1. 養子を育てるゴリラたち:

**Surrogate parenting programs in the Columbus Zoo, OH, USA**

吉田 浩子 (人間総合科学大学 保健医療学部 看護学科)

2. 成人の安全基地: 鳥研究からの考察

藤原 宏子 (人間総合科学大学 人間科学部 人間科学科)

4. パネルディスカッション (12 : 00 ~ 12 : 30)

5. 臨時総会 (12 : 35 ~ 13 : 00)

(昼休憩)

## 6. 一般口演 (発表7分, 質疑応答8分)

(14:00~15:30)

(14:00-14:45) 座長: 慶徳民夫 (山形県立保健医療大学), 遠藤隆行 (人間総合科学大学)

14:00~14:15

演題1: 内受容感覚と共感との関連に関する予備的研究

○田中 宏明<sup>1,2)</sup>, 島田 涼子<sup>3)</sup>, 小岩 信義<sup>3)</sup>

- 1) 人間総合科学大学大学院人間総合科学研究科, 2) 大阪府立大学地域保健学域総合リハビリテーション学類, 3) 人間総合科学大学大学院

14:15~14:30

演題2: 社会的シグナルがヒトの衝動性制御に及ぼす影響 -Go/Stop 課題を用いた検討-

○大竹 隼人<sup>1)</sup>, 久住 武<sup>2)</sup>, 小岩 信義<sup>3)</sup>

- 1) 人間総合科学大学大学院人間総合科学研究科, 2) 人間総合科学心身健康科学研究所,  
3) 人間総合科学大学大学院

14:30~14:45

演題3: ハンドマッサージが $\alpha$ 運動ニューロンに及ぼす影響

○佐佐木 景子<sup>1)</sup>, 高原 皓全<sup>2)</sup>, 久住 武<sup>3)</sup>

- 1) 人間総合科学大学大学院人間総合科学研究科, 2) 人間総合科学心身健康科学研究所,  
3) 人間総合科学大学大学院

(14:45-15:30) 座長: 山田晴美 (山形県置賜保健所), 鈴木盛夫 (人間総合科学大学)

14:45~15:00

演題4: 介護職の職業選択理由と就業中の精神健康状態との関連

○鶴沢 淳子<sup>1)</sup>, 有家 香<sup>1)</sup>

- 1) 亀田医療大学看護学部

15:00~15:15

演題5: 与論島における看取り文化に関する研究

○田中 優希<sup>1,2)</sup>, 大東 俊一<sup>3)</sup>

- 1) 人間総合科学大学大学院人間総合科学研究科, 2) 東京医療保健大学東が丘・立川看護学部,  
3) 人間総合科学大学大学院

15:15~15:30

演題6: 食に関するリテラシーのサプリメント摂取への影響

○水口 陽子<sup>1)</sup>, 丸井 英二<sup>2)</sup>, 久住 武<sup>2)</sup>

- 1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科, 2) 人間総合科学大学大学院

## 7. ポスターセッション・懇親会

(15:30~17:00)

目 次

特別講演・シンポジウム .....	1
特別講演	
人間のアタッチメントについて	
一人間の乳幼児のアタッチメントとその障害— .....	青木 豊 ... 2
シンポジウム	
養子を育てるゴリラたち:	
Surrogate parenting programs in the Columbus Zoo, OH, USA··	吉田 浩子 ... 3
成人の安全基地： 鳥研究からの考察·····	藤原 宏子 ... 4
一般口演 .....	5
内受容感覚と共感との関連に関する予備的研究·····	田中 宏明 他 ... 6
社会的シグナルがヒトの衝動性制御に及ぼす影響·····	大竹 隼人 他 ... 7
ハンドマッサージが $\alpha$ 運動ニューロンに及ぼす影響··	佐佐木 景子 他 ... 8
介護職の職業選択理由と就業中の精神健康状態との関連··	鶴沢 淳子 他 ... 9
与論島における看取り文化に関する研究·····	田中 優希 他 ... 10
食に関するリテラシーのサプリメント摂取への影響····	水口 陽子 他 ... 11

特別講演  
シンポジウム  
抄録

## 人間のアタッチメントについて

### —人間の乳幼児のアタッチメントとその障害—

青木 豊

目白大学 人間学部 子ども学科

アタッチメントの形成は、人間個体の社会・情緒的発達の最重要な課題の1つであると考えられている。本発表では、アタッチメントの発達が適応的にすすむ道筋と、乳幼児期に壊れたり、歪んだりする様およびその回復の可能性と、について考えたい。特に「安全基地」というアタッチメント理論の中核的な観点も取り上げる。

アタッチメントとは、個体にネガティブな情緒が惹起される状況で、特定の対象に対して安心・安全感を求めて接近する傾向をいう。アタッチメントは、生涯にわたって発達し続ける。1, 2歳児とその養育者との関係に、アタッチメント形成の現れとして「安全基地現象」がみられる。定型発達では、安全基地からの探索の物理的距離が、発達が進むにつれて増してゆく。またアタッチメント対象は、早期から複数であることが一般的であるが、発達に伴って具体的な「安全基地」は、養育者のほかに保育士、友、パートナーなどに広がる。並行して、これら安全基地は内的表象いわゆる *internal working model* の重要な構成要素として個体の行動に影響を与えることとなる。安定したアタッチメント表象は、他者に対する基本的信頼感や自己に対する肯定感の基盤となり、精神保健において保護因子やレジリエンスとなるとされている。

さて乳幼児期に重度の社会的ネグレクトや虐待をうけると、個体はアタッチメント障害に陥る。これら子どもたちには、最重症例ではアタッチメント対象すら持ちえていない行動

(安全基地がない!)が見られ、より軽症の場合も「安全基地の歪み」(アタッチメント対象はあり)と表される問題行動が観察される。前者の例が DSM-5 に見られる反応性アタッチメント障害であり、後者が Zeanah ら (2008) らの定義するアタッチメント障害の下位分類「安全基地の歪み」である。これら子どもたちは、その時点で精神障害に陥り、その社会的機能が低下している。後の発達で障害からどの程度回復できるのか、必要な治療・介入はいかなるものなのか、についてはいまだ十分には分かっていない。本発表では、大規模な研究や症例研究から、子どもたちの回復の道を、一部振り返りかえる。

キーワード：乳幼児、アタッチメント、安全基地、アタッチメント障害

## 養子を育てるゴリラたち：

## Surrogate parenting programs in the Columbus Zoo, OH, USA

吉田 浩子

人間総合科学大学 保健医療学部 看護学科

愛着理論を確立した J. ボウルビィが、K. ローレンツ、N. ティンバーゲンに始まるエソロジー（動物行動学）の発展に大きく影響を受けたことは良く知られています。アカゲザルの乳児に「ミルクつきの針金のお母さん」と「ミルクなしの毛布のお母さん」のどちらかを選択させた H. ハーロウらの有名な実験を示した論文は、ボウルビィが「愛着」の先駆的概念を示した論文と同じ 1958 年に発表されています。ヒト以外の動物の母子関係の探求が、ヒトの母子関係の進化的背景を考える際に有用な手がかりとなることは自明となり、ボウルビィの愛着理論に関する 3 部作は行動の進化を考える際の必読書のひとつでした。

その後、この愛着理論に纏わる様々な行動学的な知見は、欧米の野生動物、とくに哺乳類の飼育現場に積極的に取り入れられるようになりました。この理論を応用した取り組みは、何らかの理由で母親に育てられることができなかつた子どもに見られる不適応行動の軽減につながりました。また、母親に見捨てられた野生動物の乳児に栄養を与え生かすことはできても、オトナになってからその種に要求される社会行動やルールを教えることは異種であるヒトには難しいのですが、同種の養母を探して養子縁組させることで、この問題が解決することもわかりました。今回は、その一例として、米国コロンバス動物園のゴリラの養子縁組の取り組みについてご紹介します。

ゴリラは、「怖い」「凶暴」なイメージを持たれることも多い野生動物ですが、草食であるせいか、実際はとてもおだやかで静かな森の巨人です。コロンバス動物園は、飼育下で初めてゴリラの繁殖に成功し、様々な先駆的な飼育方法を実現してきたゴリラ飼育の世界で最も有名な動物園のひとつです。筆者は、野生チンパンジーの母子関係に関する研究が一段落した後に、コロンバス動物園のゴリラたちの行動観察のために、1996 年から約 6 年、毎年この動物園で数週間から数か月を過ごしました。今回は、できる限り数字や専門用語を使わずに、この経験を通して彼らから教わったことの一部をお伝えします。ゴリラの「こころの安全基地」を探すお話を通して、「こころ」と「からだ」の有機的なつながりは、ヒト以外の動物にも存在する、そんなことを実感してちょっとほっこりした気分になって頂ければ幸いです。

## 成人の安全基地：鳥研究からの考察

藤原 宏子

人間総合科学大学 人間科学部 人間科学科

乳幼児期の母子関係には、愛着関係の4つの特徴（1. 近接性の探索, 2. 分離苦悩, 3. 安全な避難所, 4. 安全基地）がみられるが、青年・成人期の恋愛や夫婦関係においてもこれら4つの特徴がみられる。鳥の刷り込みなどの動物行動学の概念や発見は、Bowlbyが母子関係の研究を進め、愛着理論を形成する上で大きく貢献した。一夫一妻制が一般的な鳥類では、繁殖つがいの雄と雌の間には強い社会的な絆がある。成人期の夫婦関係にみられる愛着行動を理解する上で、鳥類の研究は何らかの示唆を与えうるのだろうか。私たちが進めてきたセキセイインコ(*Melopsittacus undulatus*)の研究を一つの例として、この可能性について考えてみたい。

セキセイインコは、他の個体から視覚的に隔離された状況に置かれると、配偶者のコールに対して、配偶者以外の個体のコールに対してよりも、より多くの鳴き返し応答（配偶者のコールへの選好性）を示す。私たちは、配偶者のコールに対する応答に、行動面でも神経活性の面でも性差があることを明らかにした。その実験では、雌雄1個体ずつを繁殖用ケージに入れ5週間飼育をした後、雌雄を分け（つがい解消）、その後は異性からの視聴覚刺激を遮断してさらに5週間飼育した。行動面では、つがい解消直後に雄は配偶者のコールへ選好性を示したが、つがい解消5週間後には、新奇雌個体のコールへ選好性を示した。どちらの時期でも、配偶者のコールへの選好性は、雄よりも雌の方が高かった。これらの結果について、成人の愛着研究における課題の一つである「愛着対象の変動」との関連を議論する。

神経活性の面では、つがい解消5週間後に、ヒト感覚性言語野に類似した脳の一領域を調べてみると、配偶者のコールを聞かせた時は無音状態に比べ、雌では左右両半球が同様に、高い活性を示した。他方、配偶者の声を聞いた雄では、この領域の右半球側でのみ活性が上昇していた。この性差とエストロジオールとの関連を議論する。

ヒトでは、乳幼児期には未発達の大脳新皮質は、その後、成人期に向けて大きく発達する。このため、乳幼児期の愛着行動にはみられなかった特徴が、成人期では見られるかもしれない。高度な認知機能の基盤となる大脳が発達し、つがいの絆を築く鳥の研究には、成人の安全基地の新たな側面を発見するためのヒントが見つかるのかもしれない。

一般口演

抄録

## 内受容感覚と共感との関連に関する予備的研究

○田中 宏明<sup>1,2)</sup>, 島田 涼子<sup>3)</sup>, 小岩 信義<sup>3)</sup>

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科

2) 大阪府立大学 地域保健学域 総合リハビリテーション学類 作業療法学専攻

3) 人間総合科学大学大学院

【目的】 内受容感覚は、身体内部の変化に関する感覚であり、自身の感情体験との関連が示唆されている。そこで、内受容感覚の鋭敏さは、自分だけでなく、他者の感情の理解、つまり共感と関連するのではないかと考え、検討した。

【方法】 20歳代の健常者17名（男性3名、女性14名）を対象とし、対象者全員に文書及び口頭にて研究概要を説明し、書面にて同意を得た。

内受容感覚の鋭敏さの測定には、心拍検出検査(以下、HPT)を用いた。安静時に、被験者が知覚した心拍数と、心電図により計測した心拍数とを照合する検査である。被験者が知覚した心拍数と心電図の心拍数との差が小さいほど内受容感覚が鋭敏であると判断される。

共感の測定には、ある人物の目元だけの写真を提示して、その人物の心的状態を問う Eyes Test と、自己記入式質問紙の日本語版多次元共感性尺度(以下、IRI-J)を用いた。IRI-Jは、共感的関心、視点取得、想像力、個人的苦痛の下位項目から構成され、各下位項目得点と、その合計得点が算出され、得点が高いほど、共感が高いことを示す。

【結果】 Spearman の順位相関係数を用いて分析を行った結果、HPT スコアと Eyes Test 成績との間に正の相関( $rs=0.733$ ,  $p=0.001$ )、HPT スコアと IRI-J 下位項目の視点取得得点との間に負の相関があった( $rs=-0.617$ ,  $p=0.008$ )。

【考察】 共感には、他者の感情を、自分の身体反応を伴う自動的なプロセスを介して理解できる情動的共感と、意識的に他者の立場から推論し理解しようとする認知的共感の2種類ある。

Eyes Test は、主に情動的共感を評価しており、IRI-J の視点取得は、認知的共感に必要な要素と考えられる。このように考えると、HPT スコアの高い人は、内受容感覚が鋭敏なため、身体内部の感覚を手掛かりとする情動的共感は高くなるが、その反面、外部への注意が減少しているため、他者の立場から推察する認知的共感は低いと解釈できる。

【結論】 内受容感覚の鋭敏な人は、情動的共感が高く、認知的共感は低い可能性が示唆された。

倫理審査申請承認機関：大阪府立大学地域保健学域総合リハビリテーション学類研究倫理委員会 (2015-209)

キーワード：心身健康科学、内受容感覚、心拍検出検査 (HPT)、共感

## 社会的シグナルがヒトの衝動性制御に及ぼす影響

### -Go/Stop 課題を用いた検討-

○大竹 隼人<sup>1)</sup>, 久住 武<sup>2)</sup>, 小岩 信義<sup>3)</sup>

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科 2) 人間総合科学 心身健康科学研究所

3) 人間総合科学大学大学院

【目的】 ヒトが日常生活を送る上で、他者の視線や表情といった社会的シグナルは無意識的に知覚され、ヒトの衝動性の促進や抑制に影響を及ぼすことが考えられる。本研究では、その衝動性の側面である、衝動的行動とその制御について、社会的シグナルがどのような影響を及ぼすのか検討した。

【方法】 対象は18~40歳までの男女20名とした。ヒトの衝動的行動を評価する代表的なGo/No-go課題を参考に、従来の標的刺激である幾何学的な図形や矢印をヒトの目線方向（注視方向）として置き換え、Go/Stop課題を新たに作成し実施した。Go/Stop課題の作成と課題内の刺激制御、反応時間とエラー検出にはPresentation(Neurobehavioral Systems社)を使用した。また、質問紙（日本版WLEIS,不注意/多動傾向尺度）を実施することで情動知能、不注意/多動とGo/Stop課題の結果との関連性について検討した。

【結果】 Go/Stop課題では、各表情別における反応時間に差は見られなかったが、各表情の誤答率の中央値は、中性で58.3%、恐怖で47.9%、笑顔で52.1%であった。中性の値に比べて恐怖の値は小さく、有意差を認めた( $P < 0.05$ )。また、反応時間と誤答率との関係をスピアマンの順位相関行列で検討したところ、中性( $r = -0.67$ )、笑顔( $r = -0.72$ )、恐怖( $r = -0.48$ )であり、中性、笑顔に比べ恐怖の相関関係が最も弱かった。質問紙では、情動知能より不注意/多動の方が中性-恐怖の誤答率との相関関係において強かった。

【考察】 情動知能に比べ、不注意・多動スコアの相関関係（中性-恐怖の誤答率との）が強かったという結果は、恐怖表情が他の表情に比べて、注意システムに関わる脳部位の賦活をもたらした。この結果、反応抑制を求める刺激の出現に対する検出を容易にした結果ではないかと考える。また、社会的シグナルがヒトの衝動性制御に及ぼす影響として、行動抑制（ブレーキ）の役割を果たす前頭前野腹外側部（VLPFC）は扁桃体との関係性に基づき、行動の制御を司る領域であり、さらに扁桃体と密接な関係性を示す恐怖が影響することで、誤答率の減少につながっていたことが考えられた。

【結論】 対人関係において、自身が他者（その逆もある）に影響することとして、衝動的行動を起こしてしまう場面において、社会的シグナルである恐怖の注視画像は無意識的に他者（自身）の衝動的行動の内、行動の抑制を促す効果があることが示された。

倫理審査申請承認機関：人間総合科学大学倫理審査委員会承認（受付番号：443号）

キーワード：表情 (facial expression), Go/Stop課題 (Go/Stop Task), 反応時間 (reaction time), 社会的シグナル (Social signal), 心身健康科学 (Health Sciences of Mind-Body)

## ハンドマッサージが $\alpha$ 運動ニューロンに及ぼす影響

○佐佐木 景子<sup>1)</sup>, 高原 皓全<sup>2)</sup>, 久住 武<sup>3)</sup>

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科

2) 人間総合科学 心身健康科学研究所, 3) 人間総合科学大学大学院

【目的】 本研究は、ハンドマッサージにより起こると予想される心身の緊張緩和が、神経系に關与する可能性を想定して、ハンドマッサージ施術時と精神的負荷時の $\alpha$ 運動ニューロンの興奮性の変化を誘発筋電図 F 波から観察した。また心身相関の観点から、個人の不安傾向や主観的な感じ方との関連を検討することとした。

【方法】 誘発筋電図を用いて、研究協力者の安静時、ハンドマッサージ時、精神活動課題時の F 波の表れ方を比較した。F 波のパラメータは、出現頻度、振幅 F/M 比、立ち上がり潜時とした。

また、実験前後の心理状態の変化をみる質問紙、実験に対する感じ方をみる質問紙を作成し、VAS を用いて検討した。

【結果】 F 波出現頻度は、暗算負荷で顕著に増加したが、ハンドマッサージによる増加は殆ど見られなかった。また、立ち上がり潜時は、ハンドマッサージでは短縮傾向は少なかった。振幅 F/M 比は、ハンドマッサージと精神的負荷時では対照的な動きを示した。また、主観的变化は、全ての研究協力者が実験前に比べて後には、心理的、生理的、認知的に安定したと答えた。

【考察】 ハンドマッサージが精神的負荷を軽減する可能性があることが示された。精神的ストレスに対して、身体的アプローチであるハンドマッサージが有効であることは、心身相関を考える上でも意味があるように思う。今後、自律神経系の測定も合わせて行うなど、研究の幅を広げることによって、ストレスと $\alpha$ 運動ニューロンの関係、ストレスケアとしてのハンドマッサージの役割が、より明らかになるのではないかと考える。

【結論】 精神活動と $\alpha$ 運動ニューロンの興奮性との間に関係性があることがわかった。また、その興奮性をハンドマッサージが和らげる傾向があることも推測された。全ての研究協力者が質問紙調査において、実験後に心理的に安定したと答えた。

倫理審査申請承認機関：人間総合科学大学（第 456 号）

キーワード： $\alpha$ 運動ニューロン、F 波、ハンドマッサージ、ストレスケア、心身相関

## 介護職の職業選択理由と就業中の精神健康状態との関連

○鵜沢 淳子<sup>1)</sup>, 有家 香<sup>1)</sup>

1) 亀田医療大学 看護学部

【目的】 職業として介護職を選択する理由は様々である。その選択理由が就業中の精神的健康状態に関係があるのかを職業選択理由と就業中の精神的健康状態から分析した。

【方法】 平成27年7月、A県内の認知症型高齢者グループホーム6事業所で就業している介護職者91名に調査を実施した。職業選択理由は16項目から複数回答とした。精神的健康状態は日本版GHQ精神健康調査票(GHQ28)を使用し、各項目をリッカート法で合計得点を算出した。その結果をもとに職業選択理由の16項目と比較を行った。

【結果】 職業選択理由のうち「高齢者が好き」を選択した人は、GHQ28の“うつ傾向”(p<0.05)、「すぐに働ける」では“不安と不眠”“社会的活動障害”(p<0.05)、「賃金」では“不安と不眠”(p<0.01)で得点が高かった。「職場の人間関係」を選択した人は、“うつ傾向”(p<0.01)で得点が低かった。「特にない」を選択した人は“社会的活動障害”と“うつ傾向”で得点が低かった(p<0.05)。

【考察】 職場における介護職者のストレスは入居者やスタッフ間との人間関係が大きいといわれている。「高齢者が好き」と選択した人は、高齢者へのイメージと実際の入居者との違いからうつ傾向が強くなったのではないかと考えられる。また、「賃金」や「すぐに働けるから」を選択した人は、“不安と不眠”“社会的活動障害”の項目の得点が高いことから、精神的負荷がかかっていることが推測される。職業選択時、実際の就業環境について把握すること、経済的な理由以外の選択理由を持つことが就業後の精神的健康状態を良好に保つことに繋がるのではないかと考える。

【結論】 職業選択理由と就業中の精神的健康状態はその選択理由によって“不安と不眠”“社会的活動障害”“うつ傾向”に影響を与えていた。特に職業選択理由について人間関係を考慮した選択理由を持つことが就業中の精神健康状態の維持に繋がることが推測された。

倫理審査申請承認機関： 亀田医療大学研究倫理審査委員会 承認番号 2015,A,001

キーワード： 介護職員 就業理由 精神的健康 心身相関 心身健康科学

## 与論島における看取り文化に関する研究

○田中 優希<sup>1,2)</sup>, 大東 俊一<sup>3)</sup>

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科

2) 東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部, 3) 人間総合科学大学大学院

【目的】 与論島では在宅死亡率が約80%と高率である。それは本人、家族の意思で最期の時を住み慣れた我が家で過ごすという選択による。在宅死を選択する与論島の人々の「看取り文化」がもたらす現世の行動様式をめぐって、最期までこことからだを変容させ、主体的に「よりよい生」の実現を目指す社会のモデルケースを構築するための基礎的な研究、及び提言を行う。

【方法】 与論島におけるフィールドワーク及び文献研究。

【結果】 与論島の在宅死を可能とする要因には「人は自宅以外の場所で亡くなると魂がそこに宿り、非常に困る事態が発生する」「神棚を通して死後も死者の魂は家を見守り続けてくれる」という独自の死生観が挙げられる。また与論島では多くの伝統行事や祭祀が受け継がれ、子どもから高齢者まで互いを尊重し協力しあう関係が構築されていることが明らかとなった。医療福祉体制においては、制度によるサービス利用など社会的介護が馴染まず、家族型介護が主流であること、また地域の医療福祉従事者が与論の死生観を理解し連携をはかり、在宅死を実現していることが明らかとなった。

【考察】 都市部をはじめ、多くの地域では少子高齢化、核家族化などの時代の変化に伴い、伝統的文化・風習の継承が途絶え、祖先を敬い、高齢者を尊ぶ気持ちが薄れてきた。また病院死が当たり前となり、人々は自分や大切な家族の最期の生き方の選択肢すらも見失いつつある。

今後失われた「看取り文化」を取り戻すには、家族や地域の関わりの中で子どもから高齢者までが死を自然のものとして受け入れ、残された貴重な時間を主体的に生きる姿勢を共に学ぶことできる地域共同体の再構築が重要であると考えられる。

【結論】 今後都市部において在宅死を可能とするには、病院、在宅医療支援診療所等のフォーマルな支援だけでなく、地域住民やボランティア等のインフォーマルな支援も必要であるといえる。

キーワード：看取り文化、与論島、在宅死、死生観、心身健康、家（ヤー）

## 食に関するリテラシーのサプリメント摂取への影響

○水口 陽子<sup>1)</sup>, 丸井 英二<sup>2)</sup>, 久住 武<sup>2)</sup>

1) 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科, 2) 人間総合科学大学大学院

【目的】 近年、サプリメントの市場規模は拡大し、メディアによる宣伝をそのまま信じ、過剰に摂取する者もいると言われている。本研究は、食に関するリテラシーのサプリメント摂取への影響を検討することを目的とした。

【方法】 新潟県内の 200 床以上の病院に勤務する看護師を対象に、無記名自記式質問紙調査を実施し、調査項目はサプリメントの摂取状況、食に関するリテラシー尺度（食品表示活用、食品広告の影響、メディア情報批判、栄養バランス判断）、属性（年代、性別、居住環境）、健康不安の程度、勤務状況（夜勤）とした。サプリメントの摂取状況（全体および種類毎：ベース、ヘルス、オプショナル）を従属変数とする二項ロジスティック回帰分析を行い、前述の項目を独立変数とし、SPSS23.0 で解析した。

【結果】 回答者は 581 名（回収率 38.7%）で、女性 547 名、男性 34 名であった。女性のみを対象に分析した結果、現在の使用の有無では、情報批判のリテラシーが高い者の方がサプリメントの使用者が少なく（ $P<0.05$ , OR:0.646）、健康不安が高い者の方が、使用者が多かった（ $P<0.05$ , OR:1.943）。種類別では、情報批判が高い者が、ヘルスサプリメントの現在使用者が少なく（ $P<0.05$ , OR:0.463）、3 種類併用の使用経験者も少なかった（ $P<0.05$ , OR:0.617）。使用経験者の中で、情報批判が低い者は、途中の中止者が少なく（ $P<0.05$ , OR:0.623）、若い世代の中止者が多かった（ $P<0.05$ , OR:1.903）。

【考察】 食に関するメディア情報への批判的認識の高い者は、サプリメントを現在使用している者が少なく、途中で中止した者が多いことから、使用時に慎重に判断していると考えられる。

【結論】 食に関するリテラシーの情報批判の側面がサプリメントの摂取、特にヘルスサプリメントの摂取に影響していた。

倫理審査申請承認機関：人間総合科学大学（第 436 号）

キーワード：リテラシー、サプリメント、心身健康科学